

2013年度総会議案	
議案 1	2012年度全国壮年会連合活動報告の件
議案 2	2012年度全国壮年会連合奨学金委員会活動報告の件 資料（日本バプテスト連盟神学生奨学金会計の貸借対照表、消費収支計算書）
議案 3	2012年度全国壮年会連合会計（一般会計、奨学金会計）決算報告、監査報告の件
議案 4	2014年度神学校献金（神学生奨学金献金）目標額について
議案 5	連立等神学校奨学金制度に関する業務受託の件
議案 6	2013-2014年度全国壮年会連合活動計画案の件
議案 7	2013-2014年度全国壮年会連合奨学金委員会活動計画案の件
議案 8	2013年度全国壮年会連合一般会計修正予算案及び2014年度全国壮年会連合一般会計予算案の件
議案 9	2013年度全国壮年会連合奨学金会計修正予算案及び2014年度全国壮年会連合奨学金会計予算案の件
議案 10	2014-2015年度全国壮年会連合役員選挙に関する件
議案 11	全国壮年会連合規約改正に関する件
議案 12	全国壮年会連合規約 細則改正に関する件
議案 13	全国壮年会連合事務所職員規程改正に関する件
議案 14	2014年度総会議長の件 << 議案 12承認された場合 >>
議案 15	2016年度 全国壮年会開催担当地方連合の件

会議報告（開催日時順）	
◇ 地方連合壮年会等代表者会議	<ul style="list-style-type: none"> 開催日：5月18日（土）（於連盟会議室） 出席：地方連合壮年会長、壮年会連合役員、奨学金委員 陪席：鳥飼連盟理事、事務局員
<審議事項概略>	<ul style="list-style-type: none"> 本年度総会議案関係 <ul style="list-style-type: none"> 役員・監査、奨学金委員会から総会議案について説明。一部修正のうえ総会に提案することとなった。 昨年の連盟定期総会の決議を受けて連盟より委託される、連立等神学校奨学金制度に関する業務追加の議案について提案内容を確認した。スムーズな議事を期待したい。 第48回（担当：福岡）と第49回（担当：中国・四国）の全国壮年会の内容や準備状況について、それぞれの担当から説明を受けた。 代表者会議や総会の持ち方（神学校献金推進委員会議についても含む）について意見交換 <ul style="list-style-type: none"> 代表者会議の位置づけや総会との関係、今年度神学校献金推進委員会議は分離して持つこと、等について意見交換を行った。別々に開催することのメリットとデメリットがあり今年の実施結果を見てさらに検討をしたいという意見が多かった。今回大会1日目の午前中に行なう神学校献金推進委員会議においても同様な意見交換を行い、それらを踏まえて次年度以降に反映していきたい。 大会期間中に壮年同士の交流機会をどう確保するか、総会の時間を短く出来るアイデアはないか等についてもフリーディスカッションをした。今後も引き続き検討していきたい。
◇ 2013年度第1回理事会（陪席報告）	<ul style="list-style-type: none"> 開催日：6月4日（火）～6日（木）
<報告内容>	<ul style="list-style-type: none"> 奨学金委員会報告 <ul style="list-style-type: none"> 鳥飼好男奨学金担当理事より、2012年度の活動を中心に報告した。長期返還滞り者2名の状況と2007年度、2008年度卒業生のうち7名（対象17名中）が現時点で伝道者として招聘されていない現状にある（内1名は短期間で辞任）ことを報告した。承認 鳥飼好男奨学金担当理事より東京及び九州バプテスト神学校奨学金制度の進捗について説明を受けた。両神学校とも奨学金規程を制定し、連盟との覚書を締結した。 全国壮年会連合報告 大城戸会長より2012年度の活動を中心に報告した。

日本バプテスト連盟全国壮年会連合 〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4
事務局執務時間：月、水、金 10:00～16:00
☎・fax：048-886-7533 http://www.sonen.net sonen@bapren.jp
郵便振替 00150-7-669605 「日本バプテスト連盟 全国壮年会連合事務局」

<h1>全国壮年会連合</h1> <h2>ニユ～ス</h2> 	2013年6月21日
	No.77
	日本バプテスト連盟全国壮年会連合 発行人 大城戸一彦 編集人 井伊 肇 Topics password→sorengo



「第48回全国壮年大会 in 福岡」に、是非お越し下さい

第48回全国壮年大会実行委員会
実行委員長 小林鐵志（野方教会）

聖名讚美
今年の8月23日～24日にかけて、西南学院大学と西南学院バプテスト教会を会場にして、5年ぶりに全国壮年大会を福岡で開催いたします。前回の大会には、650名の参加者がありましたが、今回もたくさんの方々を期待をもって集まって頂けるように、現在準備を進めております。

今回の大会も、色々な目玉を用意していますが、いくつかを御紹介いたします。

まず1つ目は、主題講演をNHKの「プロフェッショナル、仕事の流儀」に2回出演された東八幡バプテスト教会の奥田知志牧師にお願いしています。すでに皆さんも御存じと思いますが、奥田先生は、NPO 法人 北九州ホームレス支援機構の理事長を務めておられ、また東日本大震災の被災地での支援活動もされています。奥田先生のお話を通して、「共に生きる」、「寄り添って生きる」ということ等を聞いていきたいと思っています。

2つ目は、「人を育てる」というテーマを掲げて、パネルディスカッションを行います。「人を育てる」ということは、誰しもが経験することであり、日常的であり、大事なテーマです。特に近年、私たちバプテスト連盟の教会においても、無牧師の教会が増えてきております。その中で、献身者を育てることについて、様々な角度から一緒に考えたいと思っています。そのために、パネラーとして、吉田晃児牧師、片山寛教授、加藤誠前常務理事、渡邊寛兄を立て、コーディネーターとして金子敬牧師と、野口哲哉宣教部長をお願いをしています。

3つ目は、今回も神学部先生方にご協力を頂いて、模擬授業を行います。5年ぶりに行いますが、新しい先生方も加わっておられます。今回は、小林洋一先生、青野太潮先生、天野有先生、金丸英子先生、片山寛先生、松見俊先生、須藤伊知郎先生、濱野道雄先生、日原広志先生にお願いしています。神学部の授業を体験していただけたらと思っています。

今回の大会も、盛りだくさんのプログラムを用意しておりますので、是非振るってご参加下さい。また、女性会の方々にも楽しんで頂ける大会でもあると思います。

栄光在主



中国・四国教会連合壮年会の働きについて



中国・四国地方連合壮年会長 松田裕二（道後教会）

全国の地方連合の中で、中国・四国連合は教会、伝道所が広範囲に点在ししかも瀬戸内海を挟んでいます。そんな地理的条件から、連合全体での取り組みも簡単ではなく、連合の全体修養会も毎年開催はできないのが実情です。（ブロック別の修養会をしています）

中規模以下の教会が多く、人的、財政的に困難を覚えながらもそれぞれの課題に取り組んでいます。

こうした中で、教会の中核を担うべき壮年はそれぞれ一生懸命奉仕をしています。しかし、壮年会として定期的に活動している教会は、そう多くはありません。私の所属している道後教会も、壮年会としての活動は神学校献金の取り組み以外できていません。

こうした現状を踏まえ、昨年壮年会の総会で規約改正をしました。今まで各教会の壮年会の集合体として位置づけられていた「壮年会連合」を、各教会、伝道所の個々の壮年で構成する「壮年会」としました。これによって1人でも多くの壮年が、連合の壮年会の活動に参加しやすくなったのではないかと思います。

その総会は昨年1月8日～9日松山バプテスト教会に於て開催されました。30人の壮年が集まり、今後の壮年会のことで話し合いました。また交わりを深めるため、「さくら」というクラシックのグループに来てもらいコンサートを開催しましたが、これには壮年だけでなく女性会や青年、少年少女、CS児童の参加もあり70名近くの人が集まりました。

この総会での大きな議題は、2014年度の全国壮年大会を中国・四国連合壮年会で担うかどうかということでした。私が前会長草刈兄（岡山）からこの課題について引き継ぎを受けた時、今の中国・四国連合の状態ではなかなか実行委員会もできないし、無理だろうと正直思いました。しかしこの総会で、連合の壮年がひとつ思いになれば実現できるのではないのかという意見が大勢を占めたこと、そして広島教会壮年会が積極的に関わるという決断をしてくれたことにより、私は連合の壮年の思いに押し出され、会長として応諾の決断をしました。

現在、2014年度の全国壮年大会へ向けて、石倉央実行委員長（広島）を中心に準備が進められています。会場はほぼ決まり、現在講師の人選と交渉にあたっています。被曝地広島で、平和について聖書から聞いて行く、その思いを全国の仲間と共有していけたらと考えています。大会開催までの準備と大会の成功のために、祈りを持って支えてくだされば幸いです。

「若者の歩む道」



西南学院大学神学部神学科4年生 マルサン（推薦教会 浦和教会）

全国壮年会連合の皆様「こんにちは」「ミンガラバー」主の御名をほめたたえます。

敬愛する皆様のNews letterで、証をする大きな恵みが与えられたことを心から感謝いたします。

いつも、私も含め神学生たちのために、祈りと支援金を献げてください心から感謝致します。感謝の気持ちを持ちながら、去年の全国壮年大会にはじめて参加をさせていただきました。大変嬉しかったこともあり、奨学金のことで驚いた場面もありました。壮年たちが奨学金のために熱く議論していたからです。

私は神学校に行く前から教会の中で、壮年たちが一生懸命神学校献金のために、奉仕をしてくださっている姿を見ることや知ることがありました。ですから、日本の西南学院大学の神学校に入学できた喜びのことや私をいろいろな形で支えてくださった日本の一人一人の兄弟姉妹たちや先生達などに感謝し、この感謝の気持ちを私の胸に抱きしめながら、私が信じている私の主にお返しをしたいとますます強く思うようになりました。それは、私に与えられている使命を実現することです。

私には幼い時から、生活をする中で、使命感を与えられました。それは、子どもたちがキリストの愛の中で共に過ごし、互いに、学びあえるキリスト教教育に基づいた教育施設を母国（ミャンマー）につくることが教会の幼児から青年に至る教育に関することです。この活動の働きに参加し、もちろん教会の様々な働きに参加し、実現できる作業をすることです。

なぜ、このビジョンを与えられたのかは私自身もよくわかりません。私が思い込んでいるからか、なぜ、このことを捨てられないのかは自分自身も知りません。私はカチン民族人であり、幼い時に国内戦の中で育って来ました。内戦が始まると逃げなければなりません。自分の家を捨てて命のために、いろいろな場所に隠れて生きなければなりません。この生きのびられた喜びを人々に伝えて行きたいと思うようになった時からこの使命感が起こされました。

現在も国内戦は続いています。世界にはあまり情報が伝えられていません。国内戦で苦しんでいる子どもたちのことをいつも、忘れることができない自分があります。カチン民族の子どもはただ、親に捨てられた子どもたちの家ではありません。軍政権から圧力を受けて、苦しんで育つことができない子や、親がなくなった子や親戚が養うことができない子どもたちが多いためです。その子どもたちの将来のことや生きる喜びを伝えるためには「ホーム」や「教会」が必要になります。そのために、キリスト者である私は何が出来るのか？私の主は私をどこの道に遣わされるのか？国内戦で死なないで生きられたこの私がこれから、どんな道で歩むのか？自分自身も分かりません。

でも、私が信じている私の主が私にその道を教えてくださり、導いてくださると信じて歩んで参りたいと思っています。来年の3月には卒業をする予定です。私を含め神学生たちのために、お祈りとお支えをよろしく願います。

「詩編119：9-16」



「私が神様からいただいた賜物」～笑顔とハーモニカ

蒲地正明（大井バプテスト教会）

私は今から15年前に60歳を期に会社を定年退職しました。もう少し働くことも可能でしたが、38年間働いて、年金も頂ける状況にあり、子供達も独立し、妻も未だ現役で働いており、少し贅沢な願いかも知れませんが、全てのしがらみから解放されて思いのまま好きなことをしてみたかったです。そこで思いついた事の一つがボランティア活動でした。些か気取った表現ですが、

これまでに、幾多の辛い時や苦しい時があっても何とか乗り越え、私自身も病気が少し病気もせず

に此処まで来られたことは全て神様の恵みだと感謝しています。たとえほんの少しでも社会にお返しが出来ればという気持ちが強くありました。一口にボランティア活動と言っても様々な内容があります。私も同類ですが、出来ることならばお年寄りの介護をしている施設に行き、何かお役に立てることをやりたいと考えました。結果として、娯楽が不足しているお年寄りに喜ばれるような、懐かしい歌をハーモニカで伴奏しながら、一緒に歌う事にしました。子供の頃の私は歌が大の苦手でした。声はドラ声、調子っぱずれ、音符も読めず、音楽の評価はいつも2でした。そんな私が青年の頃、偶然に教会へ通うようになり、信仰を頂き、偶々誘われて聖歌隊に入りました。相変わらず音符の上がり下がり分かる程度でしたが、ご指導宜しく何とかベースを歌える迄になり、お蔭で今や音楽大好き人間に変えられたのです。それと小学生の頃は音楽が苦手の筈だったのに、中学生になった時に、既に働いていた兄や姉が買ってくれたハーモニカを頗る愛好し、暇さえあれば吹いていました。それ等の事が後で大いに役立つ事になるのです。

もう一つ生来他人を喜ばせる事が好きなエンターティナー的な性格です。小学生と中学生時代には自習時間に先生から乞われて落語をやったり、毎回運動会の応援団長をやったりしていました。この性格も多分神様から頂いた賜物と言えるでしょう。初めてのボランティア活動は手話ダンスの方達に誘われた事でした。踊り手が衣装替える幕間にハーモニカを吹いて時間を稼いで欲しいということでした。でもダンスを見せたり、曲を吹いたり、歌を聴かせたりする事は一方通行でした。それよりも歌と一緒に歌えば、共に楽しむことが出来るのと思いました。若い時に歌声喫茶に夢中になった事を思い出したのです。そして少し経ってから、手話ダンスを辞めて独立することにしました。<次号に続きます>

壮年会活動紹介-富士吉田バプテスト教会（西関東地方連合）

前任の伊藤世里江牧師をシンガポールでの伝道に送り出し、宮西宏明・千晴夫妻を牧師として招聘し、教会の庭の前に大きく聳える日本一の富士山が、世界遺産に登録されるという話題の中にある富士吉田教会を5月26日に訪ねました。宮西牧師夫妻の着任には間があり無牧師の期間中でしたが、その日はカナダから来日されたThe Back Porch Gospel Bandのゴスペルでリードする賛美礼拝でした。ゴスペルの英語の歌詞にこめられた思いがストレートに言葉として届き、楽しく嬉しいひと時でした。礼拝参加者はゴスペルバンドによる礼拝ということもあって、外国人の方が多くみえられましたが、普段でも外国からの観光客が礼拝に参加されることも多いとのこと。礼拝後は、サンドイッチ等の手作りの昼食が用意されていて、バンドの方々のまわりで話に花が咲いていました。（左の写真参照）

昨年の教勢報告では壮年の数は9名となっていますので、壮年会の例会等が定期的に行なわれているのかと尋ねたら、定期的な会はないそうで、女性会例会で、「世の光」を壮年も一緒になって学んでいるとのこと。壮年だけで固まることなく自由に活動されているようでした。礼拝後の食事の提供も、第1主日以外は実施、壮年会とか女性会の当番ではなく、スケジュールの担当者に、個人が申し出て、食事当番を担当するスタイルで繋がっていました。（右の写真はバーベキューのスナップ）



今回の訪問の受入れ窓口となって下さった壮年の井東さんは、先週卵ピラフとトマトスープを40人分作ったとの事。食事の収益金は、神学校献金と世界祈禱献金に折半して献げられています。献金も壮年が世界祈禱献金に積極的に協力し、女性会メンバー・青年も神学校献金に献げられるという良い協力関係が築かれているようです。礼拝人数40人前後の教会の活動のひとつのあり方を示しているのではないのでしょうか。シンガポールに赴任される直前の伊藤牧師に連盟事務所でお会いした時に、壮年会のことをお聞きしたら、これからもっと会員が増えて活動が盛んになったらいいと願っていますとのことでした。宮西牧師夫妻のもとで実現するように祈っていきたく思います。

「伊藤牧師のお父様が亡くなり、転勤もあり、一時期は7名となったのですが、渡部君が結婚し、李さんとスティーブさんが転会され、三浦さんと北島さんがバプテスマを受けられ、宮西師を迎える事で、13名となりました。年齢も国籍も様々な教会員達で構成された、多彩な壮年会です。主に感謝いたします。」井東談（取材者：全国壮年会連合事務局員豊永義典）

